

# 県立図書館

場 所 県立図書館

出席委員 7 名

議 題

- ① 第17回福島県図書館大会について
- ② 第15回地方史研究講習会について
- ③ マイクロシステム導入について
- ④ 昭和45年度県立図書館関係当初予算編成について

第3回

日 時 昭和45年3月27日

場 所 県立図書館

出席委員 7 名

議 題

- ① 昭和45年度県立図書館関係当初予算内容について
- ② 奉仕および整理係業務報告について
- ③ そ の 他

## 第1節 概 要

### 1 はじめに

情報化時代における図書館の役割はますます多方面にわたってきており、図書を貸し出すということは勿論、社会の情報機械化とともに、それらに対応していかなければならなくなっている。

これらに対処するために、図書館としても、既存資料の体系化、複写サービス、マイクロシステムの導入等、着々体勢を整えつつある。特に本年は長年の懸案であったマイクロシステムの導入が実現し早速新聞のマイクロ化に着手したことは本県図書館史上特筆される年度である。

また移動図書館“あづま号”の県内巡回によって、市町村の読書施設である公民館図書室活動の活発化、それがための県公共図書館協会加入等の増加等、県内中心館として果たしている役割は大きく評価されるべきものであり、今後は更に関係者の更に上の段階に対する読書施設の重要性を認識してもらうような方向をとるべきものと考えられる。

本年度における業務の主なものを以下詳述し、謙虚に反省すると同時に、新たな方向に向かって大いなる前進を歩むものである。

### 2 福島県立図書館協議会の開催

- (1) 委員氏名 (任期 自 昭和44年4月1日  
至 昭和46年3月31日)

田中 泰雄 福島県立福島西女子高等学校長  
渡辺 官雄 福島市立北信中学校長  
木幡 久枝 福島県婦人団体連合会副会長  
合津 定之 福島県PTA連絡協議会副会長  
吉田農夫雄 福島県公民館連絡協議会理事  
(双葉郡大熊町公民館長)

宮森 啓治 福島県社会教育委員  
大野 雅人 福島県議会厚生文教委員  
辺見 正治 福島市教育委員会教育長  
辺見 和郎 福島民友新聞社論説委員会幹事  
平井 博 福島大学教育学部教授

- (2) 開催状況

第1回

日 時 昭和44年7月11日

場 所 県立図書館

出席委員 9名

議 題

- ① 本館業務の概要について
- ② 北日本図書館協議会理事の選出について
- ③ そ の 他

第2回

日 時 昭和44年10月30日

## 第2節 整 理 事 務

### 1 図書館資料の収集

資料の収集にあたっては、各部門の基本図書に重点をおいたが、とくに郷土資料については、県関係を中心として、県内における個人、各種団体等の出版物を重点に積極的に収集を図るとともに、本県に関係のある県や市の県市史を整備することに努めた。

本年度において収集した郷土資料のうち、一つの特色はマイクロフィルム資料の収集である。情報産業の発達にともない今日まで入手することのできなかった貴重な資料が、つぎつぎにマイクロフィルム化され市販されるようになり、しかも原資料を求めるよりはるかに安価で入手できるようになった。

本年度受入れた資料は4,452冊であるが、過去3カ年と対比してみると次表のようになる。

	42年度	43年度	44年度
購入	2,278冊	2,702冊	2,892冊
寄贈	1,489冊	1,643冊	1,317冊
編入	704冊	864冊	243冊
計	4,471冊	5,209冊	4,452冊

購入については、43年度に比して4%の増に止まり総体的には15%の減である。この原因は、寄贈資料の伸びが鈍化したことと、編入図書の大部分を占める合冊雑誌の受入れを留保したことによる。

雑誌はもともと消耗品扱いであるが、これを合冊製本して備品扱いとして一般図書と同じ取扱いをしていたものである。しかし、年々増加する図書館資料の整理能力も限界にきているため、事務合理化の一環として、一般図書と同様の取扱いによる受入を留保したものである。

### 2 マイクロシステムの導入

図書館業務の近代化施策の一環として、マイクロシステム